

- 1 佐野市行政改革大綱について
- 2 河川敷グラウンドの整備について

○7番（小暮博志） 次に、2つの件に関しまして質問させていただきます。

1つ目は、佐野市行政改革大綱について、2つ目は、河川敷グラウンドの整備についてであります。

まず、1つ目の佐野市で進めております佐野市行政改革大綱に関係した内容についてであります。新佐野市は、平成17年2月28日に誕生しましたが、誕生に伴い、より一層の行政運営の効率化を求められておりました。平成17年度の市民1人当たりの行政コストを見ますと、28万3,000円となっております。これを隣接の足利市や栃木市に比較しますと、足利市とは2万9,000円、栃木市とは2万3,000円ほど高くなっておりました。このような中、平成18年度から平成21年の4カ年期間において佐野市行政改革大綱の推進計画を立て、市民生活の向上や行財政の効率的運営等に関して合計69項目の改善内容を取り上げ、推進していることは評価に値することとおっております。この中では、行政改革の推進に当たり、広く市民の意見を求めるため、市民の代表者等の15名で組織する佐野市行政改革懇談会を設置し、行政改革の実現状況や実施計画について適宜報告し、提言を受けております。さらに、平成22年度からは第2次佐野市行政改革大綱を定め、将来にわたり持続可能な財政構造の転換を図るため、新たな取り組みを進めようとしており、11月19日までパブリックコメントを募集しておりました。この中では、補助金等交付検討委員会の提言を受けて、補助金等の見直しを実施することとであり、今、国で進めている事業仕分けのように活発に行っていただきたいとおっております。ぜひ実りのある成果を期待するところであり、私たちも協力していかなければならないと考えております。

11月20日に、政府は日本経済が緩やかなデフレ状況にあるとの発表をしております。11月15日の日本経済新聞でも、冬のボーナスは14社集計によると、昨年に比べて14%減であり、1978年の調査以来、初めての2けたのマイナスになったとあります。冬のボーナスについて、足銀総合研究所が県内の企業を調査した結果では、10%減とのことでありました。このような中において、私たち一人一人が夢を持って頑

張って行動していくしかないと思っております。一人一人が行動することにより、国民総生産であるGDPを大きくし、デフレスパイラルから抜け出すことができると思っております。そのためには、少しでも多くの働く場をつくることや、働きやすい環境をつくるのが大切であると思います。私の身の回りで見ますと、中小企業融資預託金による新事業への積極的支援や、働きやすい環境整備のために保育所の充実も必要だと思っております。

そこで、当局にお聞きしますが、このような経済情勢の中、保育所に関しましては、今あるものを壊して新しく建てる老朽更新と、今ある建物はそのままにしておいて、新しく建てる新規増設とではどちらが優先的に進めたほうがよいと考えるでしょうか。現在の保育所入所希望者数などから見て、お考えをお聞きしたいと思えます。

少子高齢化が進行し、経済が低迷する中では、今進めている行政改革は、ますます大切であると思っております。平成18年から平成21年度の4カ年期間で進められる佐野市行政改革大綱の歳出改善効果を10月7日の下野新聞や資料で見えますと、平成18年度が4億3,200万円、平成19年度が10億9,200万円、平成20年度が12億6,800万円と成果が出てきております。平成18年度から平成20年度までの歳出削減効果は、合わせて27億9,200万円になっております。これは平成17年度財政コストの約8%に相当します。平成17年度と平成20年度の市民1人当たりの行政コストを比較しますと、平成17年度が28万3,000円、平成20年度が28万7,000円になっております。市民1人当たりの行政コストには変化が見られておりません。

そこで、質問ですが、この3年間に生じた27億9,200万円の歳出改善効果が平成20年度の行政コスト低減にあらわれていない理由をお聞きいたします。

そして、歳出改善効果が行政コスト低減にあらわれていないとしたら、予算歳出上にどのようなよい変化をもたらしているのかお教えいただきたいと思えます。

佐野市行政改革大綱は、財政のみでなく、多くの業務改革が進められており、サービスが向上していることは承知しておりますが、財政の点のみお聞きいたします。

次に、平成 22 年度から平成 25 年度に計画される第 2 次佐野市行政改革大綱について質問させていただきます。平成 22 年度以降を考えますと、少子高齢化が一層進み、長引く景気の低迷により、財政源の根幹をなす税収が落ち込む一方で、医療、介護、児童手当、生活保護、教育などに要する経費が大幅に伸び、行政運営に厳しい状況が続くと想定しております。大綱では、財政不足を基金から繰り入れて補う財政構造から脱却して、将来にわたり持続可能な構造への転換を図るため、新たな取り組みを進めていく必要があると述べております。方針として、市民サービスの向上に努めながら、行財政の効率的運営等に当たることを示しております。

ここで、平成 21 年度の一般会計の当初予算を見ますと、歳入約 414 億円に対し、財政基金からの取り崩しが約 12 億円、市債が約 36 億円と、歳入の約 12%が不足しております。さらに、地方債の合計として約 382 億円ほどあります。市民 1 人当たり約 30 万円の借金があると確認しております。公共下水道や水道等の特別会計も入れて考えてみますと、これらの地方債や借金はこの 2 倍ほどになると思います。大綱で述べている財政を将来にわたり持続可能な構造への転換を図ると示しておりますけれども、これはどのような状態を指しているのでしょうか。そして、そのようにしていくことによる痛みや喜びのある将来像などを考えておりましたら、教えていただきたいと思っております。

以上、佐野市行政改革大綱に関係して、3 つの考えをお聞きいたします。

次に、大きな 2 つ目の質問ですが、河川敷グラウンドの整備についてであります。河川敷グラウンドを利用されている方からの話ですが、でこぼこを少し平らにしていただけないかというようなことでした。グラウンドにはでこぼこが多いため、サッカーボールのイレギュラーが多いことや、足の捻挫などの心配をしながらプレーしているとのことであり、そのような話でした。特に子供の試合のときなどは、イレギュラーが多く見られるとのことでした。私も堀米町キンカ堂の西側にある秋山川河川敷グラウンドと石塚町市営石塚団地西側にある旗川河川敷のグラウンドを見てきました。秋山川河川敷グラウンドは、使用頻度も高いようで、天然芝もかなりはげており、でこぼこも多く、サッカーもやりづらいららうなというふうに思いました。旗

川の河川敷グラウンドは、3分の2くらいは天然芝がよく生えておりましたが、3分の1くらいは芝がなく、低くなっておりました。私の感じですが、少し土を入れて、でこぼこを平らにできたらよいなと感じた次第でございます。しかし、河川敷のため、増水したら荒れてしまい、どのようなものかなとも思っております。今後河川敷のグラウンドに土を入れて平らにするようなことをお持ちでしょうか。当局の考えをお聞きしたいと思っております。

以上、よろしくお願いたします。

○議長（笠原敏夫） 当局の答弁を求めます。
まず、こども福祉部長。

○こども福祉部長（高瀬 一） 小暮博志議員の一般質問にお答え申し上げます。

保育所の建設に関し、老朽更新と新規増築とではどちらが優先するかとの考えでございますが、公立保育所の多くは、昭和40年代から50年代の第二次ベビーブームの保育需要に対処するために順次開設されました。しかし、少子化とともに、核家族化や女性の社会進出の増加など少子化と多様化する保育ニーズに対応した保育所の施設整備と運営が求められてきております。今後の対応といたしましては、現状で使用できなくなる保育所につきましては、改修、改善を行い、また敷地面積や施設配置という観点から、保育環境に限界がある保育所につきましては、新たな場所に新築する必要があると考えております。これらを視野に入れ、今後策定いたします保育所整備運営計画の中で、経済情勢を踏まえながら、老朽更新と新規増築のどちらを優先するか、総合的に検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（笠原敏夫） 次に、総合政策部長。

○総合政策部長（寺岡敏男） 一般質問にお答えいたします。

初めに、平成18年度から平成20年度までの歳出削減効果は27億9,200万円であったが、市民1人当たりの行政コストは、平成17年度28万3,000円、平成20年度は28万7,000円で低下していないが、そ

の理由はについてでございます。行政改革を行うことにより、捻出した財源を新規の事業に充当し、市民サービスの維持等に努めてまいりました。

次に、歳出削減効果が行政コストにあらわれていないとしたら、予算歳出上にどのような変化をもたらしているかにつきましては、現時点の予算規模により拡大し、その財源不足を補うために、さらなる財政調整的基金からの繰り入れが必要になるものと考えられます。その結果、財政調整的基金が枯渇した状況となり、あらゆる分野の見直しが必要になったものと考えております。

次に、第2次佐野市行政改革大綱案では、財政を将来にわたり持続可能な状態にするとありますが、どのような状態かにつきましては、持続可能な財政構造への転換を図るための取り組みを進めてまいります。

初めに、予算規模につきましては、歳入に見合った歳出予算構造へ転換を図ることにより、予算を適正規模に変更していくことでございます。

次に、地方公共団体の財政の健全化に関する法律による健全段階を維持し、それを継続することでございます。また、将来像につきましては、時代に合った行財政改革を継続することにより、できる限り市民サービスの維持に努めることと、総合計画の将来像でありますはぐくみ支え合う人々、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市を目指すまちづくりを行うことでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（笠原敏夫） 次に、都市建設部長。

○都市建設部長（篠山俊夫） 一般質問にお答えいたします。

河川敷グラウンドの整備についてでございますが、議員ご指摘のグラウンドは、秋山川堀米緑地及び旗川石塚緑地に整備されたサッカー場でありまして、多目的広場や遊具広場等も整備され、多くの市民にご利用をいただいております。今後の整備につきましては、使用頻度

の高いグラウンドでもあり、市民に快適にご利用いただくために、でこぼこした箇所に適宜砂などを入れて整備してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。